

## 日銀短観(2010年3月調査)予測

当社は、4月1日に発表される日銀短観(2010年3月調査)の業況判断DIと設備投資計画の予測を行いました。景気回復の持続に伴い、業況判断DI(大企業)は、製造業、非製造業とも着実な改善が見込まれます。設備投資計画は、2009年度は12月調査から上方修正されるものの大幅マイナスに留まり、2010年度は小幅なマイナスになると予想されます。

業況判断DI: 大企業・製造業 -16%ポイント、大企業・非製造業 -17%ポイント

設備投資計画: 全規模・全産業 2009年度-16.2%、2010年度-5.7%

### 【 業況判断 DI 】

日本経済は輸出、生産の増加を起点とした景気回復が続き、最近では資本財出荷指数が上向きに転じ、現金給与総額のマイナス幅が縮小するなど、設備投資、雇用にも明るい兆しが見えている。これに伴い、業況判断DIは製造業、非製造業とも着実に改善すると見込まれる。輸出財産業が好調であるのに対し、消費財産業の回復は遅れており、非製造業の改善は製造業より小幅に留まると考えられる。大企業製造業の業況判断DIは今回調査では-16と12月調査比9ポイントの改善、大企業非製造業の業況判断DIは今回調査では-17と12月調査比4ポイントの改善が見込まれる。中堅、中小企業についても同様の傾向で、製造業の改善に比べ、非製造業の改善は小幅なものに留まると予想される。先行きについては、設備投資、雇用の底入れに伴い、さらなる改善が見込まれる。

### 業況判断DI

(「良い」-「悪い」、%ポイント)

		12月調査	3月調査	
		最近	最近	先行き
大企業	製造業	-25	-16	-10
	非製造業	-21	-17	-13
	全産業	-23	-16	-11
中堅企業	製造業	-28	-21	-16
	非製造業	-27	-24	-22
	全産業	-27	-23	-20
中小企業	製造業	-41	-35	-30
	非製造業	-34	-31	-29
	全産業	-37	-32	-29

## 【 設備投資計画 】

2009年度の設備投資計画(全規模・全産業)は、前年度比-16.2%と、12月調査比1.6ポイントとわずかな上方修正が見込まれる。機械受注や資本財出荷指数の最近の動きは、設備投資が底打ちしたことを示しており、一部企業は、新興国の需要の強さなどをにらみ、戦略投資を再開する動きを見せている。ただ、産業全体としては設備の過剰感は依然強く、上方修正の幅は極めて小幅なものに留まると考えられる。2010年度は設備投資がプラスに転じることが予想されるが、今回の3月調査は年度に入る前の調査であるため、-5.7%と慎重な数値になると予想される。景気回復期であっても、3月時点の設備投資計画はマイナスからスタートする場合があります、この数値は、年度が経過するにつれ上方修正されていくと考えられる。

### 設備投資計画

(前年度比、%)

		2009年度		2010年度
		12月調査計画	3月調査実績見込	3月調査計画
全規模	製造業	-29.9	-27.7	-2.8
	非製造業	-11.1	-10.0	-7.0
	全産業	-17.5	-16.2	-5.7
大企業	製造業	-28.4	-25.9	2.4
	非製造業	-4.4	-3.2	-1.6
	全産業	-12.8	-11.5	-0.4
中堅企業	製造業	-33.4	-31.6	-16.3
	非製造業	-23.5	-21.7	-19.2
	全産業	-26.7	-24.7	-18.4
中小企業	製造業	-34.4	-32.8	-17.1
	非製造業	-26.4	-25.4	-22.0
	全産業	-28.7	-27.9	-20.5

《本件に関するお問い合わせ先》 株式会社富士通総研 経済研究所 上席主任研究員 米山秀隆  
電話 03-5401-8392(直通) E-mail: [yoneyama.hide@jp.fujitsu.com](mailto:yoneyama.hide@jp.fujitsu.com)

\* 本資料は日銀記者クラブ、内閣府記者クラブにて配布いたしております。